

テーマ「離農することになった場合の地域での取り決めについて」

対象地区	集落名	実施日	参加人数	集落での話し合い結果
横山上、横山中、横山下	横山上	12月2日	3人	◆現状 横山上：6件 40ha 平均年齢68～69歳 4～5年で全員がやめると思う。拡大は難しい。 横山中：6件 70ha 70代以上が3名、1名が30ha規模で経営、今後5年で離農者が出ると思われる。 横山下：18件 専業、兼業が半分かくらい。うち2～3割が高齢。兼業農家は1ha、専業農家は2～3haくらい増やせる見込み。 ◆対応 ・普段の集まりの時から、離農のことや課題について、できるだけ話題にするようにする。 ・離農する際は、あらかじめ数年前から生産組合長にできるだけ伝える。 ・生産組合では、離農する農家の圃場の地続きの農家や周辺の農家に声をかけ、できるだけ集約に努める。 ・集落内で、生産者を見つけられない時は、横山中、下の生産組合長に情報を伝える。 ・横山中、下の生産組合長は、当該生産組合員に声をかけ、生産者を探す。 ・生産者を見つけられない時は、他集落や役場に伝え、生産者を探す。 ・年に数回は、横山上、中、下の生産組合長で意見交換をするように努める。 【生産組合長3名と町による意見交換を実施】
	横山中			
	横山下			
土橋	土橋	11月25日	1人	・離農する2年前には相談役に相談することになっている。 ・相談役は基本地続きの耕作者に声をかけるようにしている。 →そのおかげで、集約が進んでいる。 ・それで話がまとまらない時は、近隣（助川、横山、文下）にも声かけをしている。 →土橋の農業者では限界になっているので、他集落からの入り作には抵抗はない。 ・世話役の後継者も決まっている。 ・民間の農業者が参入してくることにしても抵抗はない。選択肢が広がることは良いことだと思う。 【集落の相談役の方と町による意見交換会を実施】
助川	助川	アンケート実施		◆アンケート結果（配布枚数25枚 回収枚数18枚 回収率72%） Q2.「10年後の後継者の目途がついていない」と回答した方が町全体では約60%、また、70代の方では、約70%います。その状況をふまえ、今後、あなたの集落の農業経営はどのようになると思いますか。 誰も耕作しない農地が増える。 6名（33%） 若い農家が減り、高齢化が進む 15名（83%） Q3.その理由を記入してください。（抜粋） 1.後継者不足 2.低収入 3.やりがいを感じない 4.土地の集約化が益々増える Q4.集落外から新たな農家や法人等が参入する事に関し、「かまわない」と回答した方が町全体で約70%います。新たな参入者があつた場合、集落内で問題にならないようにするため、どんな事に気をつけるべきか記入してください。（抜粋） 1.コミュニケーションをとり話し合う 2.組合費を高くしないで人夫確保に努める 3.農地を荒らさないで作付けしてもらえば良い 4.思い浮かばない Q5.「農地の集積」、「農地の集約」について、「必要である」「まあまあ必要である」と回答した方が約80%います。一方で、離農する人が増えるので「農地の集積」は増加するが、「農地の集約」は農地の条件が違うため等で難しいのではという意見も多数ありました。「農地の集積」「農地の集約」を進めるうえで、どんな事を注意するべきか記入してください。（抜粋） 1.農作業効率が上がるよう話し合う 2.水の利便性向上の集約を行う 3.委託する者は条件を提示しない 4.基盤整備をして個人負担の少ない補助金の設定 5.土地の売買、貸借は不利益のないよう、農業委員会が調整する。 Q6.今後、集落内、集落外で農地を増やす希望、予定はありますか。 助川 3ha 1名 10ha 1名 20ha 1名 土橋 5ha 1名 ◆稲作の現況 新型コロナウイルスの影響で米の消費は伸び悩み多くの在庫を抱えて令和3年度の新米の値段が公表された。大規模農家では昨年比で600万の収入減で先行購入した機械の資金不足に悩んでいる。 全国一の作況指数を示した裏に今後来る転作率への影響、原油価格高騰と将来が不安でならない。 これは生産者自ら、自分の作った商品に値段をつけることができないう現状、米は過剰生産だが令和4年の生産調整に素直に応じる生産者、収支決算は赤字でも来年また種を播くなど、昭和を彩った食糧自給率30%の日本の1次産業を支えてきた生産者の意地である。しかし、助川集落も自然には逆らえない感がある。 1人暮らし予備軍が10年以内に倍増し、この先町内会が維持できなくなることも考えられる。 生産組織の様相は一変し、ほんの一握りの生産者が町からの熱き期待を胸に奔走しているのではないか。 そこで今後の農政に関わる者として提案する。 1.自ら経営面積拡大を構想する個人、法人に絞って意見交換、情報開示する 2.先進地に出向き、三川独自ブランドの作目を検討する 3.農地の集約化に結び付く、基盤整備の強化と大型機械導入に移行する補助制度の確立 4.紙の配布は極力減らし、各生産組織を見直し統廃合を進める 5.意識改革をより強固なものにする為、職員のプロ化を進める

対象地区	集落名	実施日	参加人数	集落での話し合い結果
堤野、横内	堤野	11月13日	5人	堤野 特に話し合いはしませんでした。個々の聞き取り等で後継者がなく高齢のため5年位で農地の貸付けや離農を考えている。中心経営体の今後の引受は高齢のため考えられない。
	横内	アンケート実施		横内 ・農地の移動については個人対応。 ・認定農家で離農する人はいません。
竹原田、加藤、菱沼、小尺	竹原田	10月24日	3人	竹原田 竹原田町内会の中では、集約されているので当面、現状で実施する。
	加藤	11月21日	6人	加藤 1.人・農地プランの修正なし 2.離農予定なし 3.農地の引き受けについては、組織内を優先として調整する。
	菱沼	11月21日	6人	菱沼 変更なし
	小尺	11月14日	7人	小尺 ・今のところ現状を維持していく。
横川、横川新田	横川	10月20日	9人	横川 ・離農する場合は、離農する当事者が直接、隣接する圃場の認定農業者または若手農業者に優先して声を掛ける事により、効率的な農地の集積・集約化を行う。 横川新田 ・横川新田は、横川生産組合長と田んぼの両方田んぼぬし、声掛けするルールは前と同じ。 ・例外があり、田んぼのぬしが、勝手に遠くの人へ声をかけいきなり、見知らぬ人が…という事がありました。 ・横川地域とは、隣であり、仲良く活動、田んぼ・畑をしています… ・田んぼを貸しても草だらけでされては貸したくない。 ・息子さんも働いていて、手薄で本人だけが田をするには、無理がきているようです。
	横川新田	8月1日	18人	・ここ5年、10年前後考えて、本人はまじめに農業に取り組みきちっとした形で田んぼ仕事をしているのを認めて見っていますが、どうしても独身者が連れ合いを見つけないのでなく、田んぼの面積を増やす方向へ向かっています。家族がいないと、5年後・10年後に、また、高齢化した時に、何かあったら引き受けている田んぼがどうなるか心配である。
青山	青山	11月21日	8人	・令和3年5月現在の経営面積で変わらない。 ・今の米価では、現状維持で経営していくのが妥当である。
天神堂、尾花	天神堂	10月7日	7人	天神堂 ・生産組合数は8名であり、水稻農家は7名。組合員の年齢は70代が3名、60代が3名、50代が2名。自身が経営をやるだけ行って、あとは誰かに委託する方向である。
	尾花	12月1日	3人	尾花 現状維持
猪子	猪子	10月21日	16人	・離農する方は生産組合長に連絡する。 ・IDFが面積を拡大したい。 ・稲作の勉強会を設けてもらいたい。(年2.3回) ・自分が丈夫ならばやれるまで。 ・猪子でやれる人がいれば本当は猪子に任せたい。 ・法人などができれば。 ・生産組合長に話をして欲しい。→近隣の生産組合に声を→町へ ・農機具の有効利用
成田新田	成田新田	12/2～12/12	—	◆意見など ・取り決めなどがなくとも今までなんとかこなってきた。無理に決め事を作る必要はあるのか。 ・誰がどの程度の農地を求めているのか分からない。 ・主導するのは役場なのか生産組合なのか。 ・自身の離農見通しも立たないのにその後の事まで考えられない。 ・生産組合主導で農地をやり取りするシステムを作るべきだ。 ・農地が点在する現状では気軽に受けにくいので、もっと(地番的に)集約するシステムが欲しい。 ◆取り決め ・生産組合主導で農地を集めたい人を取りまとめる。また、それを公表する。 ◆生産組合長 所感 ・自分の進退情報を出した方が多く、話がまとまりにくい。やれるところまでやるという気概がかえって邪魔になっている感がある。反面やはり不安が大きいのか、他者の情報、主に集約希望者の情報を求めている。

対象地区	集落名	実施日	参加人数	集落での話し合い結果
東沼、すみよし	東沼	11月25日	9人	<ul style="list-style-type: none"> ・生産組合に挙げてもらい、合同会議（東沼・すみよし）で担い手に振り分ける。できる限り、この2集落の中で生産していく。 ・年1回、11月位には、合同会議を開催し、情報収集を行う。
	すみよし			
三本木	三本木	10月20日	10人	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷先の関係からいきなりのお願いは難しい。 ・離農する時は生産組合を通して。 ・2, 3年先から。 ・隣接からはじめる。 ・国の補助…もあれば… ・離農する時は2, 3年前から生産組合に連絡すること。また、生産組合は隣接した耕作者に声をかけ集約できるように検討する。集落内の機械利用組合とも調整を図る。
対馬	対馬	10月31日	17人	<p>①対象地区の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手、後継者不足の現状に大きな変動はない。 ・現時点においても、かなり多くの新たな受け手の確保が必要である。 <p>②対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離農する前に、認定農業者や新規就農者に声掛けを行うとともに、中心経営体以外の就農者にも声掛けをしていく。 <p>③②の方針を実現するために必要な取り組みに関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産組合が中心になり、継続的な話し合いを続けていく。 ・また、対馬地区においては、今後4～5年が大きな転換期になることから将来、後継者へ引き継ぐためにも、現状設備の老朽化、大型機械の導入など設備投資が必要となってくるため、行政に補助事業の充実を積極的に働きかけていく。
上町、押切中町、押切下町	上町	8/10～	9人	<p>上町・中町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別なことは取り決めていない。 ・中心経営体の3～4割は面積拡大は可能である。 ・土地に関する事 <ul style="list-style-type: none"> ・自らの土地と、貸借地の再考 ・小作料と買取への手助け ・土地改良区費の再考 ・耕作に関する事 <ul style="list-style-type: none"> ・種苗、肥料、農薬代の手助け ・農地の貸借について <ul style="list-style-type: none"> ・小作料については受け手、出し手で三川町の小作料をもとに双方の話し合いで決める。 ・土地改良区費については出し手の方にも賦課してもらうかは双方の話し合いで決める。 ・離農にあたっては2～3年程前にその意向を生産組合または受け手に伝える。 ・集落外の方が賃借したい場合は生産組合で話し合う。 ・新規就農について <ul style="list-style-type: none"> ・離農する人（家族間）においては基本的に同上のプランとする。 ・法人への移行について <ul style="list-style-type: none"> 必要によっては集落、生産組合で話し合う。
	押切中町			
	押切下町	9月9日	5人	<p>押切下町</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.後継者がいない為、現状維持の考えが強い 2.離農する時は生産組合を通す事 3.押切下町で受け入れない場合、ほかの地区と連携していく考えである。
落合、土口	落合	1月7日	5人	<p>落合</p> <p>離農の2年前に生産組合に声をかけ、話し合いする。</p>
	土口	10月16日	8人	<p>土口</p> <p>現行の人・農地プランに変更なし</p>